

11・7 日比谷へ!

2010年11月2日
5

全学連(織田陽介委員長)書記局通信

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

1万人結集に未来がある!

あらゆる可能性を追求して組織しよう

【1】1年生の決起先頭に法大包围デモをうち抜く!

10月29日、第5波法大包围デモがうち抜かれました! 学祭規制に反対して当局への抗議行動に立ち上がった1年生グループが、鮮烈にデモに合流した! 1年生は、デモへの決起をもって3万法大生と全国の学友に「ともに一步踏みだそう!」と呼びかけています。学生の行動が歴史を動かす時代が来た! それはまず、法大市ヶ谷キャンパスから始まった!

昼休み集会で文連委員長・斎藤郁真君(法2・退学処分)は、「たった今、1年生が学生センター長に抗議文を提出している!」と学内の闘いを報告。「学生を立ち上がらせないように恫喝しているやつらをぶっとばそう。勇気を出して一步踏み出すときだ!」と訴えた。倉岡雅美さん(人環3・停学処分1年)は法大生に、「世界中の学生がキャンパスからデモに立ち上がっている。中国のデモに続こう! 学生のエネルギーを行動で爆発させよう!」と熱烈に呼びかけた。

法大生はどんどんピラを受け取る。1枚のピラがまかれるたびに、学生支配がうち砕かれ歓呼の声が上がる。キャンパスが明るい! これに対し、当局は異常な大音量で放送をかけ「正門前の演説は業務妨害だ」と絶叫(悲鳴)。

そして、ついに感動的な決起が起こった! 「デモに行こう!」という呼びかけに応え、抗議文を提出した1年生が一人また一人とデモに合流してきたのです! その姿に自らの意



志で行動することへの誇りがみなぎっている。この熱い決起がキャンパスを揺り動かした! 拍手と歓声が起き、注目が集まる。当局職員や公安警察は憔悴してうなだれるばかり。これが学生の力だ!

いよいよ総長室へデモ。デモ隊は「学祭規制粉碎!」「不当処分撤回!」「菅政権打倒!」「学生は自分たちの意志で行動しよう!」と訴える。その先頭に1年生が堂々と立っている。圧巻だ。デモは圧倒的な注目を集め、市ヶ谷を席卷した。

最後に倉岡さんが「11・6には田母神の日の丸デモがある。戦争を賛美し日の丸を掲げることが誇りではない。仲間の処分に対して声を上げることこそ学生の誇りだ。11月7日とともに立ち上がろう!」とまとめた。10・29法大デモの高揚の中で、新たな11・7決起も決まっています! 菅や田母神、大学当局をぶっとばし、未来を切り開く力が11月1万にある。目に見える行動で学生の誇りと力を示そう。最後の1週間、あらゆる力を振り絞って総力決起しよう! (K)

追記: この決起に恐怖した法大当局と学祭実は、何と「11・7を組織させない」の一点で、自主法政祭への文化連盟の参加(入構)を、ガードマンを使って暴力的に阻止してきた。前代未聞の大暴挙だ! 敵は追いつめられ、これは必ず墓穴に転化する。法大生の怒りは高まっている。11・2門前抗議闘争を突破口に、法大生の11・7への決起をつくり出そう!



【2】10・25富大集会を中心に、全国大学の闘い

富山大学～10・25反戦集会報告

10月25日、富山大学学生自治会は反戦集会を大成功させた。この集会には全学連・織田陽介委員長をはじめ全国の学生も応援に駆けつけた。

正午から集会がスタート。正門前には集会破壊のために『大学内および大学周辺でのアジ、ビラまき禁止』の立て看板と職員30人が。しかし、全学連が正門前を制圧し集会を開催した。世界大恐慌が一方では大失業を生みだし、他方では帝国主義戦争として学生、労働者に襲いかかる時代に真っ向から反戦を掲げた集会だ。特に、釣魚台問題を契機とする菅政権の侵略戦争と真っ向から対決したことは決定的であり、多くの富大生と合流した。ビラの受け取りもすごい良い。11月集会への賛同がドンドンとれる。わざわざビラを受け取りに帰ってくる学生もあらわれた。学生はストレートに菅政権に怒ってる。



西頭学長は「ビラを受け取れば処分」「教育環境を乱す学生は処分」「学生は社会のことを考えるな、訴えるな」と叫んできた。しかし学生はそんな存在ではない。監獄大学・富大からこそ、11月集会-反戦集会を提起すれば学生の反乱が起きることを25日の集会ははっきりさせた。しかも横畑・富山大准教授は、『センカクモグラを守る会』を立ち上げ、自民党・右翼と一体で「尖閣諸島は日本の固有の領土」と叫び、尖閣諸島への上陸の強行 - 排外主義 - 侵略戦争を煽っている。まさに大学が戦争の先兵になろうとしている。キャンパスから反戦行動を巻き起こし、11月労働者集会へ!

残り一週間、1万結集へ全力で組織しよう。「1万人集めたら何になるのか」「どういう影響があるのか」ということが学生と論議になっている。1万人結集は、11月派が学生運動、労働運動の主流派になる数であり、1万の勢力があれば、連合や日本共産党、社民党をぶっ飛ばして、労働者・学生の党派選択に11月派が入る。1万人の結集で巨大な地殻変動が起こせる。参加予定者が「自分が行くだけでなく、仲間を組織し1万人をめざす集会」であることをつかみ、組織者になって「何か一つ11月集会へ行動する」ということが起きている。最後の1週間、一丸となって1万人結集へ! 富大からも大挙して結集します。(N)

京都大学

京大は最後の組織戦に突入しています。先週はついに、クラス討論の中から11月集会参加を決めた一回生が登場しました! 核心は戦争情勢への怒りと、戦争を阻止する展望としての11月集会を訴えきったことです。とりわけ動労千葉、関西生コンのストライキを紹介し、「闘えば勝てる!」と提起したことです。あらゆる勢力が屈服する中で、11月派こそが戦争情勢と真っ向対決し、学生・青年を立ち上がらせる力をもっている。

さらに、熊野寮の一回生が感動的決起を開始している。11月参加を決めた一回生が、自ら『前進』の学生論文を提起し仲間を組織した! 訴えたことは「教育の民営化」への怒りと「大学の戦争協力」への怒りだ。「自分はこんなことのために学生をやっているんじゃない。教育はもっと楽しいものだ!」、この訴えが新たな仲間の決起を生み出した。この決起によって一回生が層として11月に大結集する情勢が切り開かれている。

11月集会こそ、大恐慌が「大失業と戦争」を生み出す情勢の中で、それと真っ向から対決する闘いだ。一人一人の学生が闘う主体へと感動的に飛躍している。11月集会まで残りわずかですが、巨大な展望は切り開かれている! 最後の組織戦を闘いぬぎ、11月7日に1000人の闘う学生を日比谷に登場させよう!

追記。10月31日は西郡で「狭山集会」が開催されました。全学連も断固発言し、「狭山第3次再審勝利! 八尾北医療センター民営化阻止! 国鉄闘争勝利! 11月一万結集!」を全員で確認しました。(A)

東北大学

学生との討論 総括 宣伝・扇動の練り上げ 再討論の繰り返しの結果、日に日にビラの受けとりが良くなってきています。クラス討論で意見が出され、休み時間にその学生と続きの討論をするということもできています。「菅を打倒した後にはどうしたいのか?」「学生自治会の活動には興味あるが、自分はクリスチャン。自治会はマルクス主義だが相容れるのか?」「自分は中国からの留学生。あなたたちは正義。他の留学生にもビラを読ませたい。英語でビラを作ったら自分もまく」、などなど。

ある学生は「闘っても勝てないのでは。だけど自治は絶対に譲ってはだめだ」と真剣に悩んでいました。それは彼だけの特殊な悩みではありません。だからこそ私たちが11・7で1万人が動くという大きさを熱烈に訴えきり、彼らを11・7に組織しないといけない! 動労千葉や関西生コンのように闘うこと、11月集会にむけてともに結集運動をやっていくことの中にこそ展望があることを訴えていこう!

「11・6 V.S. 11・7」は「ファシスト V.S. 労働者階級」の構造です。怒りを語り、展望を語り、残り一週間全力で駆け抜けよう!(I)

広島大学

10・21広大100人集会の高揚を引き継ぎ、発展させてきました。クラス討論は11月チケットをもって入り、11月参加をめぐって学生との討論を開始しています。そこでは「国家同士の対立(戦争)に国民が巻き込まれるのは仕方ないのではないのか」「菅政権を倒した後どうするのか」と質問が出され、活発な討論になりました。

また、全学連メールに1年生から長文のメールが届き、核兵器開発の拠点であるロスアラモス国立研究所と広大と

の提携についてよりつっこんだ見解を求める質問などが届いています。後期開講から1ヶ月。活性化している学生の政治意識、また「大学と戦争」の問題意識について捉えて離さず、最後まで学生の質問に応えるピラをドンドン出していくつもりです。さらに、学内情勢をもう一度塗り替えるために、11・2第2波反戦集会&デモに立ちます。今度は、戦争協力を進める浅原学長のいる本部棟までのデモです。広大生の自己解放的な反戦行動をたたきつけ、11・7に攻め上ります。(K)

【3】大恐慌 = 「戦争と大失業」と全面对決する11・7

(1) アメリカ帝国主義の どうしようもない没落と危機

世界金融大恐慌は深化し、帝国主義(世界体制)の危機を激化させている。野放図な財政・金融政策で大恐慌をのりきれるとした、帝国主義の策動は行きづまり破綻した。

巨大な財政赤字の重圧。財政的カンフルによる一時的「回復」は、景気対策の期限切れとともに崩れ去り、二番底-三番底の恐怖が切迫化してきている。帝国主義が歴史的に蓄積してきた「過剰資本・過剰生産力」の問題は、財政投入によって何とかなるものではない。この間の9~10月の短期間でも事態はどんどん進んでいる。

第一は、10月8日に発表された米9月雇用統計だ。前月比マイナス9・5万人となり、オバマ政権の狙っていた財政投入による「回復」から民間主導の成長過程へというプランは完全に破綻した。重要なのは、今日設備投資を本格的に拡大し、雇用者を増やすなどという状況にはまったくないこと。大失業問題が圧倒的な存在感をもって、米帝経済の「急所」として突き出されてきている。

第二に、住宅ローン支払の不能化から差し押えが急増し続けている。10月12日、米金融サービス会社のアリー・ファイナンシャルは全米で差し押え住宅の競売を一時停止すると発表。バンク・オブ・アメリカも差し押え物件の競売を停止すると発表。これらは差し押えの急増と競売市場への大量の流入という現実を示している。要するに、競売市場がパニックになり、物件の暴落をつくり出す可能性が強い

だ。この差し押え問題は失業問題と一体だ。失業と残業代の減少に労働者は苦しみ、住宅ローンを支払えなくなっている。このため差し押え物件が急増している。ここから住宅価格は低迷する。新築着工どころではない。住宅価格の低下や住宅の喪失は個人消費を圧倒的に低下させる。

第三に、10月13日にJPモルガンチェースの10年7~9月期の決算が発表になった。純利益は44億1800万ドルで前年同期比は+23%とされているが、純営業収益をみると238億ドルで、前年同期比マイナス11%。要するに、純利益=44億1800万ドルとあって表面を整えているが、実体はオバマ景気対策の波動に動かされている。個人融資のこげつきなどを多くかかえている実態も明確。米巨大金融機関も内実はグラグラなのだ。

第四に、10月15日、米政府は10年会計年度(09年10月~10年9月)の財政赤字が1兆2940億9000万ドル(約105兆円)と発表し、米帝の財政危機はいよいよ巨大な問題になってきた。11年度はさらに1兆ドルを大きくこえたレベルが続き、09年をこえる史上最大を更新する可能性がある。これが引き起こす米国債不信とドル不信は必ず、おそるべきドル暴落問題へと発展する。

第五に、10月15日に行われた米FRB議長バーナンキの講演で、この間の景気の減速について「低成長率や低インフレの状態である」と言及し、事実上デフレの危機を確認した。そして、金利ゼロ下でも「金融緩和は可能」として、「FRBが保有する(国債など)長期証券を増やすことが考えられる」としている。FRB当局が国債など長期証券を大量に保有することで、通貨を洪水のように流しこむ方法をとるしかないが、その結果引き起こされることが怖くて判断するのが難しいと言っているのだ。しかし、米帝の金融市場は、11月冒頭のFOMCにおいて画期的な金融緩和をする(5000億ドルから1兆ドルの国債などの購入)ことで低迷する株価の引き上げをはかっている。米帝は基軸国としてドル価値を維持しなければならないが、ドル安を続けなければ輸出などできない状態だ。さらに財政金融政策を強行して、市場にマネーをジャブジャブに流しこまないと景気を支えることもできない。しかし、今度は一転してインフレとドル暴落という危険が発生する。米帝(経済)はいまや完全にキリもみ状態で墜落する過程に突入しつつある。

年金制度改悪阻止のデモに立つフランスの高校生



(2) 「戦争と大失業」に対する 労働者階級の怒りの爆発

米帝(そして世界)の経済は大恐慌の深化の中で、どうしようもない危機に陥っている。しかも、この経済的大混乱は政治的危機として爆発する。11月中間選挙におけるオバマ・民主党の敗北で、議会がオバマの自由にならない情勢に突入する。かくして、米帝に残された道はこの矛盾の対外的転嫁しかない。輸出戦争・為替戦争の強行であり、世界の市場と資源をめぐるすさまじい帝国主義的争闘戦を軍事力も含めて実行していく以外にない。大恐慌は大失業とともに戦争を生み出すというプロセスが音を立てて進行し、情勢は巨大な転換をとげている。



10月23日、I L W U ローカル10は警官による人種差別虐殺事件に抗議して、サンフランシスコの全港湾を封鎖する闘いと集会に決起。写真は、発言するローカル10執行委員のジャック・ヘイマンさん(11月労働者集会にも過去に複数回参加)。

国内的な行きづまりの泥沼化は米帝だけの問題ではない。他の帝国主義諸国(大国諸国)も同じ状態にある。どこの国もまったく同じ経済危機、政治危機、階級支配の危機に陥っている。全世界で、労働者階級の怒りの革命的決起が大々的に開始されつつある。とくに、フランスにおいては、「年金改革」へのゼネスト情勢がすさまじい進展をとげている。I L W U (国際港湾倉庫労組)ローカル10、韓国・民主労総も感動的な闘いを貫徹している。

(3) 米中対立の激化と 北朝鮮・中国侵略戦争の切迫

こうした中で、帝国主義的争闘戦において米中の激しい対峙・対決情勢が世界史的に登場している。人民元の元安をめぐる攻防として、米中の死活をかけた争闘戦になってきている。それは北朝鮮情勢の危機的展開と一体化して、完全に軍事的な関係に発展している。米帝はその世界戦略、アジア戦略、何より対中戦略-対日戦略として、北朝鮮情勢につけ込み朝鮮侵略戦争に突入して主導権を確立しようとしている。中国も北朝鮮を米帝に制圧されれば死活問題だ。中国本土への米帝の直撃ルートとなり、軍事的政治的に大

変な情勢となる。この情勢の中で、米中の為替戦争であり日中の「釣魚島問題」での対立もあるのだ(日帝の戦術的突出の中でA S E A N時の日中首脳会談は決裂した)。

(4) 11・7の爆発で「新成長戦略」を 徹底的に粉砕しよう

財政危機の重圧下にあえぐ日帝は、「新成長戦略」で体制的危機をのりきろうとしている。日帝ブルジョアジーが「新成長戦略」にかけているのは、国内的には、国鉄改革の完遂を軸に公務員360万人の階級的団結の解体、階級的労働運動の一扫と産業報国会的労働組合化だ。国際的には、「東アジア共同体」構想を軸とするアジア侵略、世界侵略の推進だ。そしてこの「新成長戦略」自体が、日米安保をテコとして、日帝が米帝の北朝鮮・中国侵略戦争に参戦しうるか否にかかっている。

11月のA P E C - G 20において、菅政権はT P P (環太平洋パートナーシップ)へ参加しようとしている。広い分野の自由化協定であるT P Pに米帝が08~09年に割り込み、11月A P E Cまでに妥結をめざそうとしている。これで太平洋-東アジアを支配し、日帝の「東アジア共同体」をつぶそうとしている。このT P Pに日帝が参加しようというのは、アジアでのF T A・E P A締結競争で劣勢にたち、それどころか東南アジア諸国連合(A S E A N)に日本、中国、韓国を加えた「A S E A N プラス3」からも叩き出されかねない危機感からだ。日帝はT P Pに参加する以外に選択肢はない。日本経団連・米倉は「A P E CでT P P参加を表明すべき。この機会を逃せば諸外国に大きく遅れをとる」「世界の孤児になる」と絶叫している。

T P PはF T Aより厳しく、すべての物品の関税を100%撤廃する。日帝にとって、まったく破綻的だ。一方でそれは農業破壊と三里塚闘争つづいだ。他方で、「国際競争力」を呼号し、ブルジョアジーと一体化した菅政権は労働者への階級戦争を激化させていく以外にない。さらに大恐慌と争闘戦の激化がもたらす日米同盟の矛盾の激化のもとで、

10月30日、民主労総はソウルで「非正規労働者全国大会」を5000人をこえる結集で開催。大会に先立って、金属労組1500人が現代起亜自動車本社前で集会。巨大資本による不法派遣などを弾劾した。



中国・広東省の深圳におけるストライキ闘争



沖縄・辺野古基地建設強行-沖縄闘争の解体攻撃が激化し、同時に対中国への排外主義・国家主義、戦争的軍事的対峙を

【 4 】 11月集会ぶち抜き2011年決戦に踊り込もう！

(1)

動労千葉が9月定期大会で、1047名解雇撤回闘争とJR東日本の「検修・構内部門」の全面的な外注化攻撃との闘いの鮮明な方針を打ち出したことが、あらためて決定的だ。動労千葉と1047名闘争の地平に真っ向から対決するものとしての、JR東日本の検修・構内部門の全面的な外注化攻撃は、「第二の分割・民営化」そのものだ。そして、動労千葉を先頭に全面的な反撃が展開され、10年4月1日開始計画を中止させたことは天地を揺るがすといつていい大勝利だった。

これに対して、日帝支配階級が4・9「和解合意」という反革命に踏みきったことは明白だ。4・9反革命は、史上最大の国鉄闘争圧殺攻撃であり、国労の解体・変質化・産報化の遂行で、戦後の階級的労働運動の歴史を全面的に一掃するものだ。この4・9反革命に真っ向から対峙・対決したのが、動労千葉を基軸とする6・13からの国鉄闘争全国運動の闘いだ。ここで、一から新しい階級的労働組合をつくり出そうという壮大な決定が確認された。これは大恐慌下、大失業と賃下げ、非正規労働者化の攻撃に苦しみ、怒り、闘わんとする青年労働者の決起へとつながっている。

マルクス主義で武装し、大恐慌を革命へと転化することこそを労働者の基本的立場とする階級的労働運動が、いまこそ思いきって羽ばたく時が来た。

(2)

この6・13から7～8月決戦、10・10三里塚、そして11月への決起は4・9反革命をはねとばして前進する動労千葉型労働運動の真骨頂を示している。階級闘争はこのように、革命と反革命が組んずほぐれつの激闘をくりぬける中で前進する。敵はこれに怯え、再び巨大な反動に進んでいる。

JRの検修・構内部門の全面的な外注化で鉄道事業のほとんどを労働者ごと外注化させようとしている。JRを数百の委託会社へと分割してしまう攻撃だ。労働者の団結もズタに引き裂いてしまう。この攻撃が平成採の青年労働者

テコとした北朝鮮侵略戦争攻撃を促進させる。つまり、日帝は「最弱の環」としてふみつぶされる危機の下で、「内への階級戦争と外への侵略戦争」へと絶望的に突入するしかない。

(5) 「戦争か革命か」の歴史選択が問われている

大失業攻撃(民営化-労組破壊攻撃)と改憲-戦争攻撃は、一挙に同時に進行する。大恐慌の危機を帝国主義の側に立って、資本家の利益を守るのか、それとも帝国主義をプロレタリア革命で一掃するのかということだ。ブルジョアジーとプロレタリアートの階級決戦が煮詰まっている。「世界金融大恐慌をプロレタリア世界革命へ」「国鉄決戦をプロレタリア世界革命へ」の闘いが、労働者階級の生産点からの闘いとして組織されていくのかにすべてはかかってくる。

を圧倒的に襲うものとして強行される。「国鉄闘争全国運動」は、1047名解雇撤回をあくまで闘い、外注化阻止決戦を一体のものとしてトコトン闘い抜く。

(3)

このような国鉄情勢の激動を受け、11月集会は1047名闘争解体攻撃と全面的な外注化攻撃への全労働者の総反撃の闘いとしてかちとられる。とくに国鉄闘争全国運動は、労働組合運動を新たに創造していく闘いだ。「労働運動はつくりだすべきもの」(全国運動呼びかけ人・伊藤晃さん)なのだ。

また現在の最大の攻防点は、11月集会の三労組共闘をめぐっての新たな激突だ。関生の産業ゼネストの歴史的意義。さらに、11月集会は「公務員制度改革」という名の民営化=労組破壊攻撃との決戦への突入としてかちとられる。そして、国鉄闘争と青年労働者・学生の失業(非正規化)の大攻撃への怒りとの結合として行われようとしている。

国鉄決戦の爆発は新自由主義攻撃との基軸的激突点での全面対決であり、ここでの6・13以降の前進が、公務員制度改革粉碎闘争、青年労働者・学生の怒りの大爆発と一体化し、相互に強めあって進んでいる。

(4)

ブルジョアジーはプロレタリア革命に恐怖し、体制内労働運動指導部を取り込んで労働運動の変質を迫っている。これと一体で、民間のファシスト運動を組織している。帝国主義国家を救うために、侵略戦争を全面的肯定する運動が公然と登場した。11・6の田母神日の丸デモだ。「人権・自由」を掲げ、侵略を肯定し、民族排外主義を煽動する。大失業と戦争がファシスト運動の本格的な蠢きとして進行している。いっさいは、戦闘的潮流の本格的な登場にかかっている。労働者の闘いこそファシスト勢力を粉砕する力だ。

11・7は、激しい党派闘争と反動に勝ち抜いている。98年、闘う労働運動(三労組)の新潮流呼びかけ以来13回目の11月集会は、大恐慌下でいよいよ革命へ羽ばたこうとしている。

【 5 】 その他(街宣、集合時間、A P E C 粉砕闘争)

11・7への気運は高まってきている。まだまだ決起はつくり出せる。可能性とエネルギーは充ち満ちている。

*「10・29自立支援法廃止を求める日比谷集会」で、ビラ6000セット、署名266、チケット48枚を売り、多くの集会参加確約をかちとっている。

*10・31渋谷街宣では、民族派右翼と八チ公前で激突しつつ街宣をやり抜き、署名130、チケット14枚の販売。

11・7の集合時間は11時。遅れないように会場入りし、

全国学生の前段集会を開催した上で本集会に合流する。

横浜A P E C 粉砕全国闘争

*11・13(土) 横浜・大通り公園に正午結集

*11・14(日) 蒔田公園に正午結集

全国学友のみなさん! 全学連運動の復権と2011年決戦の爆発をかけて、残る数日を白熱的な組織化決戦として闘い抜こう!

以上。